

救急支援システムの運用状況について

1 概要

令和5年度から2ヵ年の実証実験を経て、運用を開始した救急支援システムについての運用状況を報告する。

2 運用経過

(1) 運用開始日 令和7年3月24日

(2) 連携医療機関

区分	医療機関数	内 訳
運用開始時	46	恵庭市 3、札幌市 43
令和7年度新規連携	9	恵庭市 7、千歳市 1、北広島市 1
計	55	恵庭市 10、札幌市 43、千歳市 1、北広島市 1

(3) 救急統計システムとの連携

令和7年4月から救急統計システムとの連携を開始。救急支援システムで入力した活動情報が救急統計システムへ反映される仕組みが構築され、より一層の事務効率化が図られた。

3 効果

(1) 医療機関選定の円滑化

医療機関選定時間の短縮効果については、実証実験において既に効果が確認されているが、運用開始後においても同様の効果を継続して確認できている。また、連携医療機関の拡充により地域全体での受け入れ態勢の強化が図られた。

(2) 業務の効率化

情報伝達の電子化や引継書類のペーパーレス化など、業務が効率化されることにより、救急業務の質向上に寄与している。さらに救急統計システムとの連携により、報告書作成時における事務負担の軽減や記録作業の効率化につながっており、救急隊員が現場活動や傷病者対応により傾注出来る環境が整備された。

4 おわりに

救急支援システムの運用により、多角的な観点から救急業務の効率化が図られている。その結果として得られている救急業務の質の向上を通じて、市民が安心して救急サービスを受けられる体制の強化につながっている。